

# 2026年3月期 第1四半期 決算説明会資料

2025年8月5日



株式会社新日本科学

SHIN NIPPON BIOMEDICAL LABORATORIES, LTD.

<b>1. 2026年3月期 第1四半期決算総括</b>	P. 3
<b>2. 2026年3月期 第1四半期決算概要</b>	P. 9
<b>3. 事業トピックス</b>	
<b>①CRO事業（非臨床）</b>	P. 20
<b>②CRO事業（臨床）</b>	P. 27
<b>③TR事業／SGG事業</b>	P. 29
<b>4. Q&amp;A</b>	

# 1. 2026年3月期 第1四半期決算総括

---



代表取締役会長兼社長 CEO  
永田 良一

## 1. 2026年3月期 第1四半期（Q1）実績

- 売上高、利益ともに計画を上回る。売上高は前Q1比17%増、Q1として過去最高。
- グローバルメガファーマ1社から新たにプリファードベンダー認定を取得。
- 温泉発電は予定通り4月に発電を開始し、地熱発電も定常状態となり営業黒字で推移。
- 政府主催の「創薬力向上のための官民協議会」で発表。SGG事業を紹介。

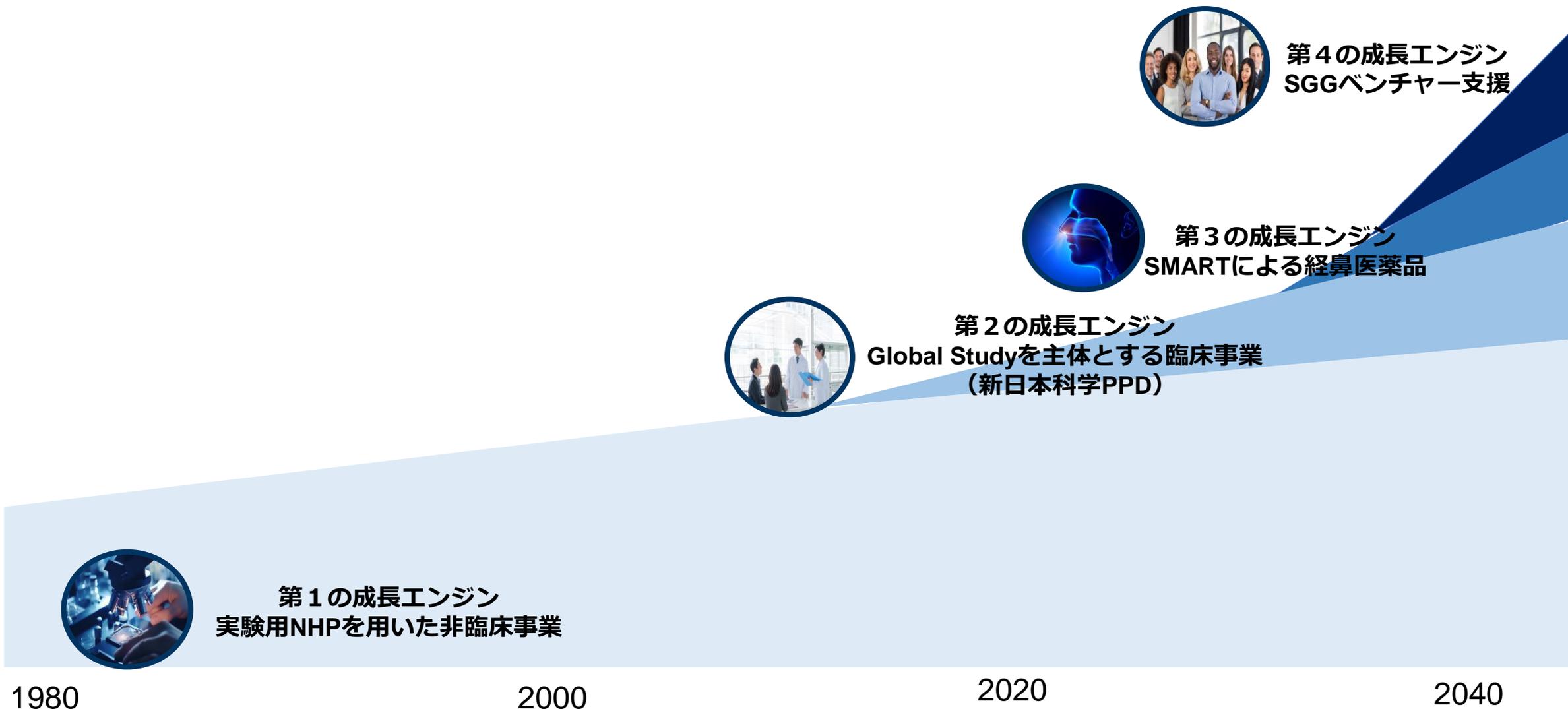
## 2. 2026年3月期 見通しと今後の方向性

- 通期業績予想に対して順調な進捗。
- 経鼻片頭痛薬「Atzumi™」は複数の販売パートナー候補との協議を継続。
- 非臨床CRO事業は、想定以上に欧米顧客からの引き合いが強くあり、戦略的投資を継続。

## 3. 企業価値向上に向けた取組み

- 「FTSE Blossom Japan Index」に初選定。

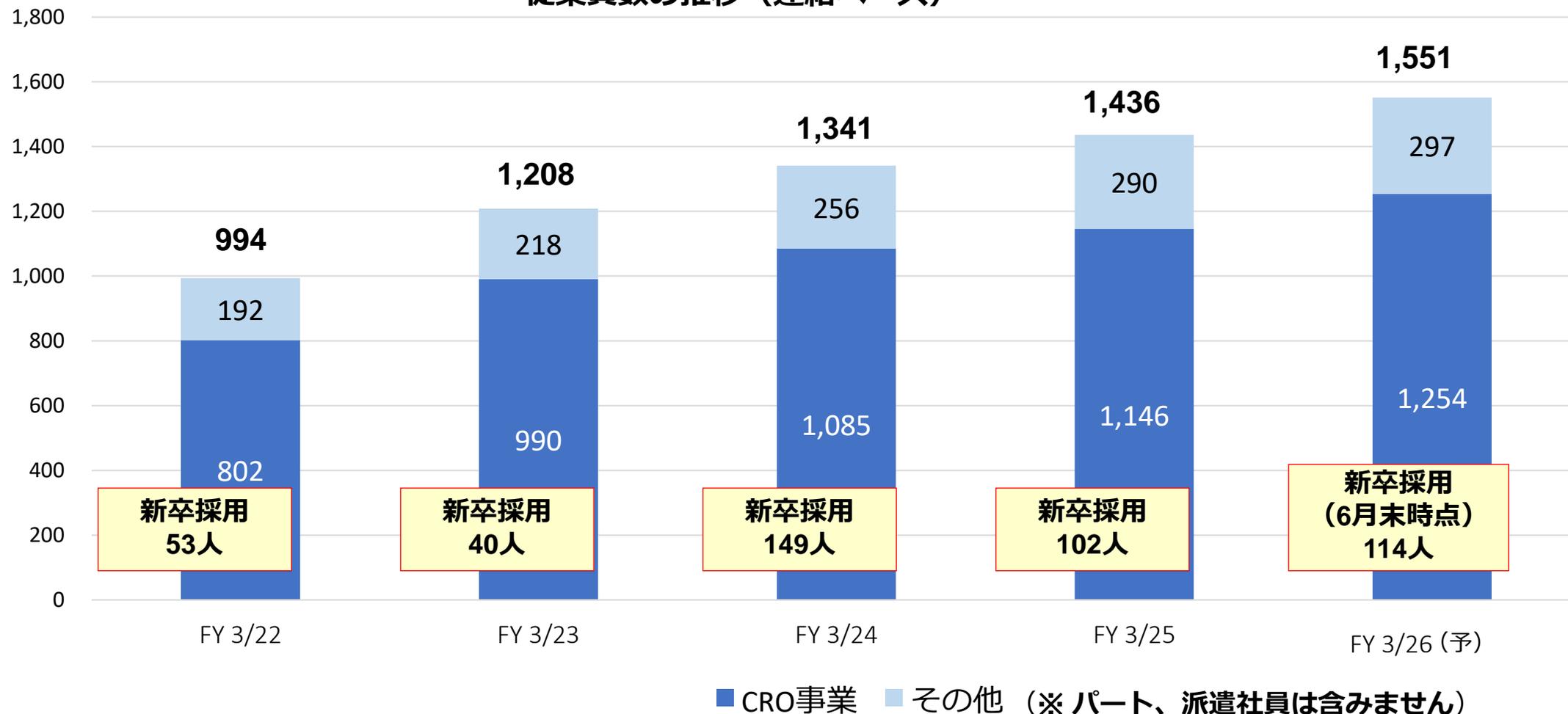
# 持続的成長のための成長エンジン



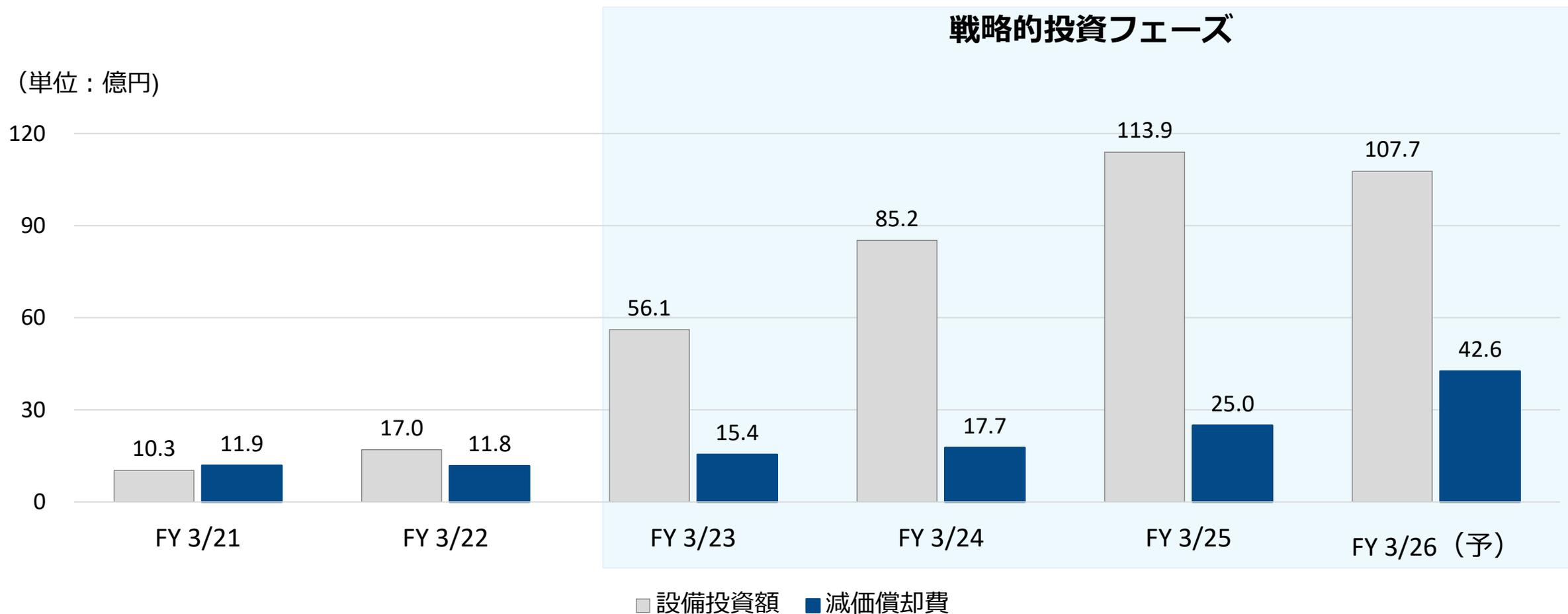
非臨床CRO事業の2025年6月末の従業員数は1,260人（前年6月末比+78人）。

(単位：人)

### 従業員数の推移（連結ベース）



非臨床事業の海外受注増に対応する体制整備に向けた投資を継続。



「環境、生命、人材を大切にできる会社であり続ける」と掲げた企業理念のもとESGの取組みを促進。

## GPIF採用のESG 指数の構成銘柄に選定



FTSE Blossom  
Japan Index



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

S&P/JPX  
カーボン  
エフィシエント  
指数

## 人的資本経営に関する外部評価



2025  
健康経営優良法人  
KENKO Investment for Health  
大規模法人部門  
ホワイト500



## 2. 2026年3月期 第1四半期決算について

---



専務取締役 CFO  
入山 隆

# 2026年3月期 第1四半期 決算ハイライト



- Q1業績は売上・利益共に期初計画を上回り、通期業績予想に対して想定通りの進捗
- 営業利益の減益の主因は、①米国Satsuma社の経費の増加、②実験機器/設備への投資強化による減価償却費の増加、③NHP国内繁殖強化に伴うコストの前倒し
- いずれも想定範囲内であり通期業績予想への影響なし

(単位：億円)	2025年3月期 Q1 実績	2026年3月期		
		Q1 実績	前期比	
売上高	55.4	64.7	+9.3	16.7%
営業利益	△1.4	-3.4	-2.0	--
経常利益	3.4	5.1	+1.7	50.8%
経常利益 (為替差損益影響を除く)	6.2	3.9	-2.3	-36.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1.2	2.6	+1.4	113.1%

# 2026年3月期 第1四半期 収益構造



(単位：百万円)	FY3/24 Q1	FY3/25 Q1	FY3/26 Q1	増加額
売上高	5,804	5,549	6,477	928
売上原価	2,611	2,524	3,408	884
労務費	1,665	1,915	1,968	53
売上総利益	3,193	3,024	3,069	45
<b>売上総利益率</b>	<b>55.0%</b>	<b>54.5%</b>	<b>47.4%</b>	<b>-7.1%</b>
販売管理費	1,966	3,169	3,410	241
人件費	703	976	1,034	58
Satsuma除く	703	762	859	97
Satsuma	0	214	175	-39
研究開発費	294	617	730	113
Satsuma除く	294	296	171	-125
Satsuma	0	321	559	238
飼育管理費	130	340	703	363
<b>販売管理費率</b>	<b>33.9%</b>	<b>57.1%</b>	<b>52.6%</b>	<b>-4.5%</b>
営業利益	1,227	-145	-340	-195
<b>営業利益率</b>	<b>21.1%</b>	<b>--</b>	<b>--</b>	<b>--</b>
営業外損益	651	487	856	369
持分法利益	531	768	725	-43
内、新日本科学PPD	548	681	700	19
為替差損益	288	-282	120	402
経常利益	1,877	342	515	173
<b>経常利益率</b>	<b>32.3%</b>	<b>6.2%</b>	<b>8.0%</b>	<b>1.8%</b>

• 実験機器/設備への投資強化による減価償却費の増加  
 • Q1のNHP試験売上構成比率の一時的な低下  
 (いずれも想定範囲内であり通期業績予想への影響なし)

FDA承認に係る製剤製造・諸費用  
 (想定範囲内であり通期業績予想への影響なし)

NHP国内繁殖強化に伴うコストの前倒し  
 (想定範囲内であり通期業績予想への影響なし)

**為替差損益**  
 24/3期Q1 △2.8億円 ⇒ 25/3期Q1 +1.2億円

# 2026年3月期 第1四半期 セグメント別の業績推移



(単位：百万円)		FY3/24 Q1	FY3/25 Q1	FY3/26 Q1	伸び率
CRO事業	売上高	5,616	5,414	6,182	14.2%
	営業利益	1,456	801	769	-4.0%
	<b>営業利益率</b>	<b>25.9%</b>	<b>14.8%</b>	<b>12.4%</b>	--
	持分法利益	531	768	725	-5.6%
	(うち新日本科学PPD)	548	681	700	2.8%
	<b>事業利益</b>	<b>1,987</b>	<b>1,569</b>	<b>1,494</b>	-4.8%
TR事業	売上高	1	20	47	135.0%
	営業利益	-245	-814	-1,101	--
	(うちSatsuma)	-	-595	-793	--
	(うちSatsuma以外)	-245	-219	-308	--
メディポリス事業	売上高	196	105	210	100.0%
	営業利益	-6	-99	33	--
米国不動産事業	売上高	--	0	43	--
	営業利益	--	-2	-23	--
その他事業・調整額	売上高	-10	9	-5	--
	営業利益	23	-29	-19	--
合計	売上高	5,804	5,549	6,477	16.7%
	営業利益	1,227	-145	-340	--
	営業利益率	21.1%	-2.6%	-5.2%	--

・ 実験機器/設備への投資強化による減価償却費の増加  
 ・ Q1のNHP試験売上構成比率の一時的な低下  
 ・ NHP国内繁殖強化に伴うコストの前倒し  
 (いずれも想定範囲内であり通期業績予想への影響なし)

FDA承認に係る製剤製造・諸費用  
 (想定範囲内であり通期業績予想への影響なし)

その他経鼻基盤技術等の研究開発関連費用  
 (想定範囲内であり通期業績予想への影響なし)

※事業利益は営業利益+持分利益

# 非臨床事業の受注高と受注残高の推移



## 【新日本科学の非臨床事業の四半期別受注動向】

(単位：百万円)

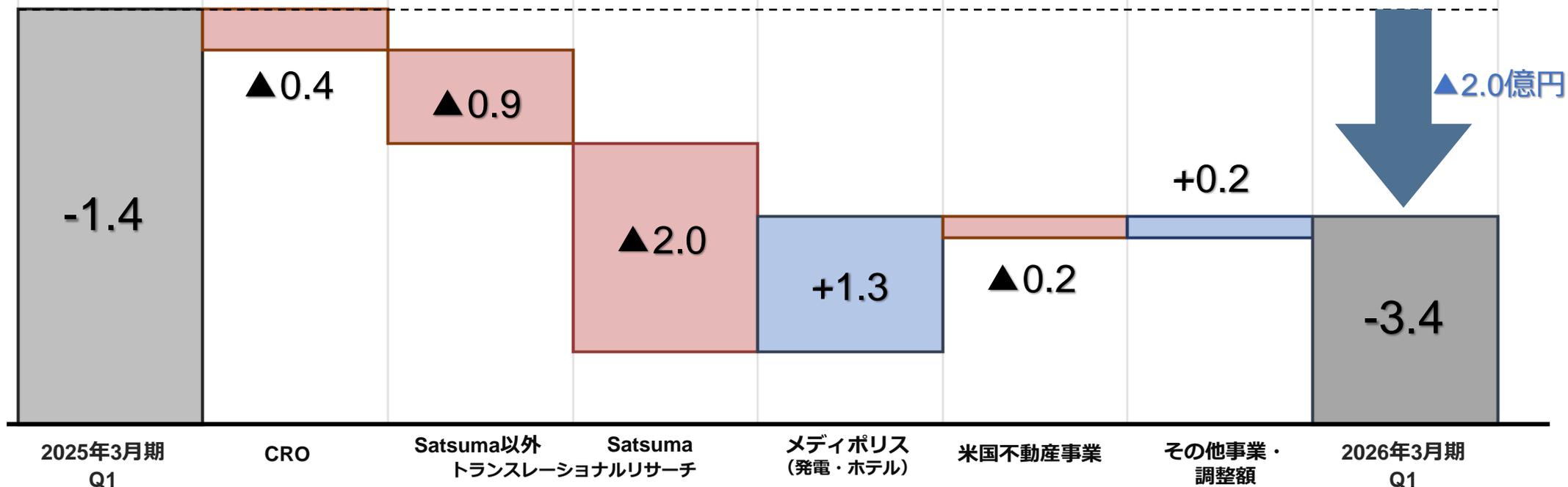
	FY 3/24					FY 3/25					FY 3/26	
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	通期(予)
受注高	8,398	4,217	8,044	6,752	<b>27,411</b>	7,170	8,141	7,364	9,434	<b>32,109</b>	8,095	<b>35,200</b>
国内受注高	6,208	3,471	5,051	5,628	<b>20,358</b>	4,001	5,755	4,243	5,769	<b>19,769</b>	4,955	<b>20,637</b>
海外受注高	2,189	745	2,993	1,124	<b>7,051</b>	3,170	2,385	3,120	3,665	<b>12,340</b>	3,140	<b>14,562</b>
欧米	1,661	827	1,830	755	<b>5,073</b>	1,659	1,994	2,825	3,303	<b>9,781</b>	3,060	<b>11,020</b>
アジア	527	<b>-81</b>	1,162	368	<b>1,976</b>	1,510	391	295	362	<b>2,559</b>	80	<b>3,542</b>
海外受注高比率	26.1%	17.7%	37.2%	16.6%	<b>25.7%</b>	44.2%	29.3%	42.4%	38.8%	<b>38.4%</b>	38.8%	<b>41.4%</b>
キャンセル	<b>-475</b>	<b>-1,559</b>	<b>-834</b>	<b>-1,110</b>	<b>-3,978</b>	<b>-2,217</b>	<b>-1,043</b>	<b>-733</b>	<b>-714</b>	<b>-4,707</b>	<b>-773</b>	--
新規受注額	8,873	5,776	8,878	7,862	<b>31,389</b>	9,388	9,184	8,097	10,148	<b>36,816</b>	8,868	--
受注残高	33,329	32,210	33,863	33,212	<b>33,212</b>	36,053	35,877	35,568	34,394	<b>34,394</b>	36,120	--

- (注) 1. 受注済案件の中止（キャンセル）が発生した場合は、その時点でマイナス計上  
 2. 海外受注高は円換算レートを各期の期中平均レートで算定しております  
 3. 海外受注残高は円換算レートを各期の期末レートで算定しております

# 2026年3月期 第1四半期 営業利益 前期比較



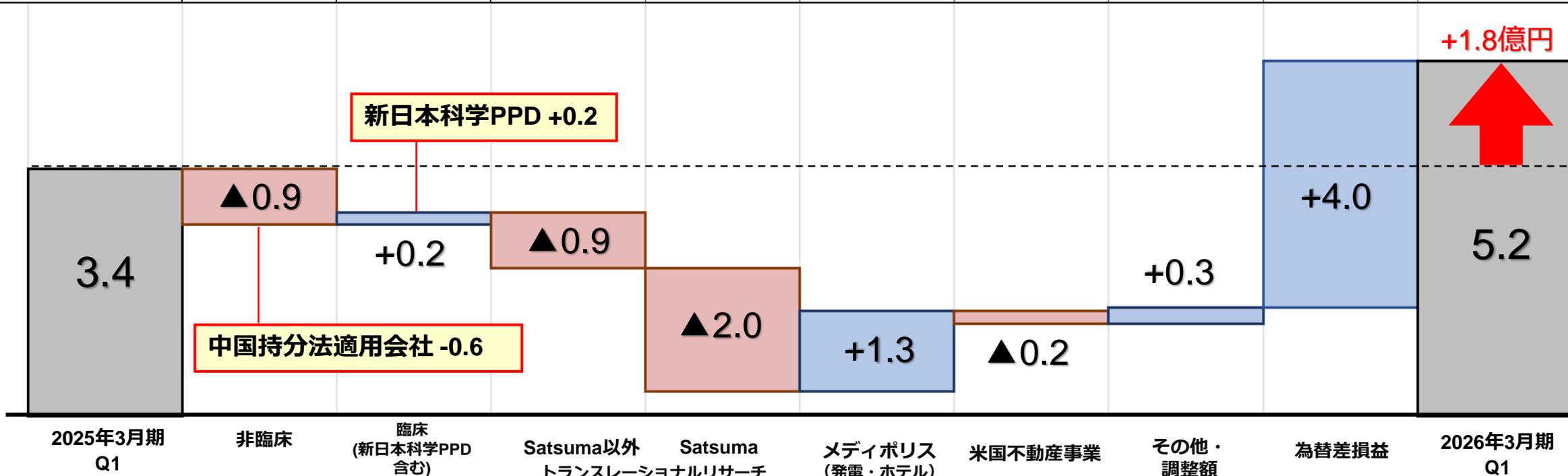
(単位：億円)							営業利益 合計
	CRO事業	トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	米国不動産事業	その他事業・ 調整額	
	非臨床事業	Satsuma以外	Satsuma				
2026年3月期Q1実績	7.6	-3.1	-7.9	0.3	-0.2	-0.1	-3.4
2025年3月期Q1実績	8.0	-2.2	-5.9	-1.0	0.0	-0.3	-1.4
前期比増減額	-0.4	-0.9	-2.0	+1.3	-0.2	+0.2	-2.0



# 2026年3月期 第1四半期 経常利益 前期比較



(単位：億円)	CRO事業		トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	米国不動産事業	その他事業・ 調整額	為替差損益	経常利益 合計
	非臨床事業	臨床 (新日本科学PPD含む)	Satsuma以外	Satsuma					
					2026年3月期Q1実績	8.6	6.9	-3.1	-7.9
2025年3月期Q1実績	9.5	6.7	-2.2	-5.9	-1.0	0.0	-0.9	-2.8	3.4
前期比増減額	-0.9	+0.2	-0.9	-2.0	+1.3	-0.2	+0.3	+4.0	+1.8



# 2026年3月期 通期業績予想



(単位：億円)	2025年3月期	2026年3月期		
		通期業績予想	前期比	
売上高	324.1	332.7	+8.6	2.6%
営業利益	29.8	35.5	+5.6	18.9%
経常利益	64.5	59.2	-5.2	-8.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	49.2	35.5	-13.7	-27.9%

(単位：円)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (想定)	想定為替感応度 (年間) (注)	
			売上高	営業利益
為替レート (米ドル)	152.57	145.00	+100百万円	+100百万円

(注) 1円変動 (円安) による影響

# 2026年3月期 収益構造の予想



(単位：百万円)	FY3/24 通期	FY3/25 通期	FY3/26 通期 (予)	増加額
売上高	26,450	32,414	33,272	858
売上原価	12,168	15,453	15,103	-350
労務費	7,275	8,199	8,711	512
売上総利益	14,282	16,961	18,169	1,208
<b>売上総利益率</b>	<b>54.0%</b>	<b>52.3%</b>	<b>54.6%</b>	--
販売管理費	10,120	13,976	14,619	643
人件費	3,259	4,281	3,881	-399
Satsuma除く	2,975	3,532	3,525	-6
Satsuma	284	749	356	-393
研究開発費	1,741	2,218	2,525	307
Satsuma除く	789	809	1,150	341
Satsuma	952	1,409	1,375	-34
飼育管理費	1,333	2,360	2,635	275
<b>販売管理費率</b>	<b>38.3%</b>	<b>43.1%</b>	<b>43.9%</b>	--
営業利益	4,162	2,985	3,550	565
<b>営業利益率</b>	<b>15.7%</b>	<b>9.2%</b>	<b>10.7%</b>	--
営業外損益	2,854	3,466	2,377	-1,089
持分法利益	2,751	3,513	2,392	-1,122
内、新日本科学PPD	2,632	3,272	2,281	-991
為替差損益	60	-162	0	162
経常利益	7,016	6,451	5,927	-524
<b>経常利益率</b>	<b>26.5%</b>	<b>19.9%</b>	<b>17.8%</b>	--

Satsumaの経費を上期分のみ計上

その他経鼻基盤技術/非臨床等の研究開発

# 2026年3月期 事業セグメント別の業績予想



(単位：百万円)		FY3/24 通期	FY3/25 通期	FY3/26 (予) 通期	伸び率
CRO事業	売上高	25,884	31,595	32,098	1.6%
	営業利益	7,023	7,258	8,069	11.2%
	<b>営業利益率</b>	<b>27.1%</b>	<b>23.0%</b>	<b>25.1%</b>	--
	持ち分法利益	2,751	3,513	2,416	-31.2%
	(うち新日本科学PPD)	2,631	3,272	2,281	-30.3%
	<b>事業利益</b>	<b>9,774</b>	<b>10,770</b>	<b>10,485</b>	-2.6%
TR事業	売上高	39	54	160	2.9倍
	営業利益	-2,470	-3,681	-3,790	--
	(うちSatsuma)	-1,344	-2,323	-1,743	--
	(うちSatsuma以外)	-1,126	-1,357	-2,047	--
メディポリス事業	売上高	569	565	764	35.2%
	営業利益	-254	-422	-48	--
米国不動産事業	売上高	--	46	240	5.2倍
	営業利益	--	-61	0	--
その他事業・調整額	売上高	-42	154	10	-93.5%
	営業利益	-137	-109	-681	--
合計	売上高	26,450	32,414	33,272	2.6%
	営業利益	4,162	2,985	3,550	18.9%
	営業利益率	15.7%	9.2%	10.7%	--

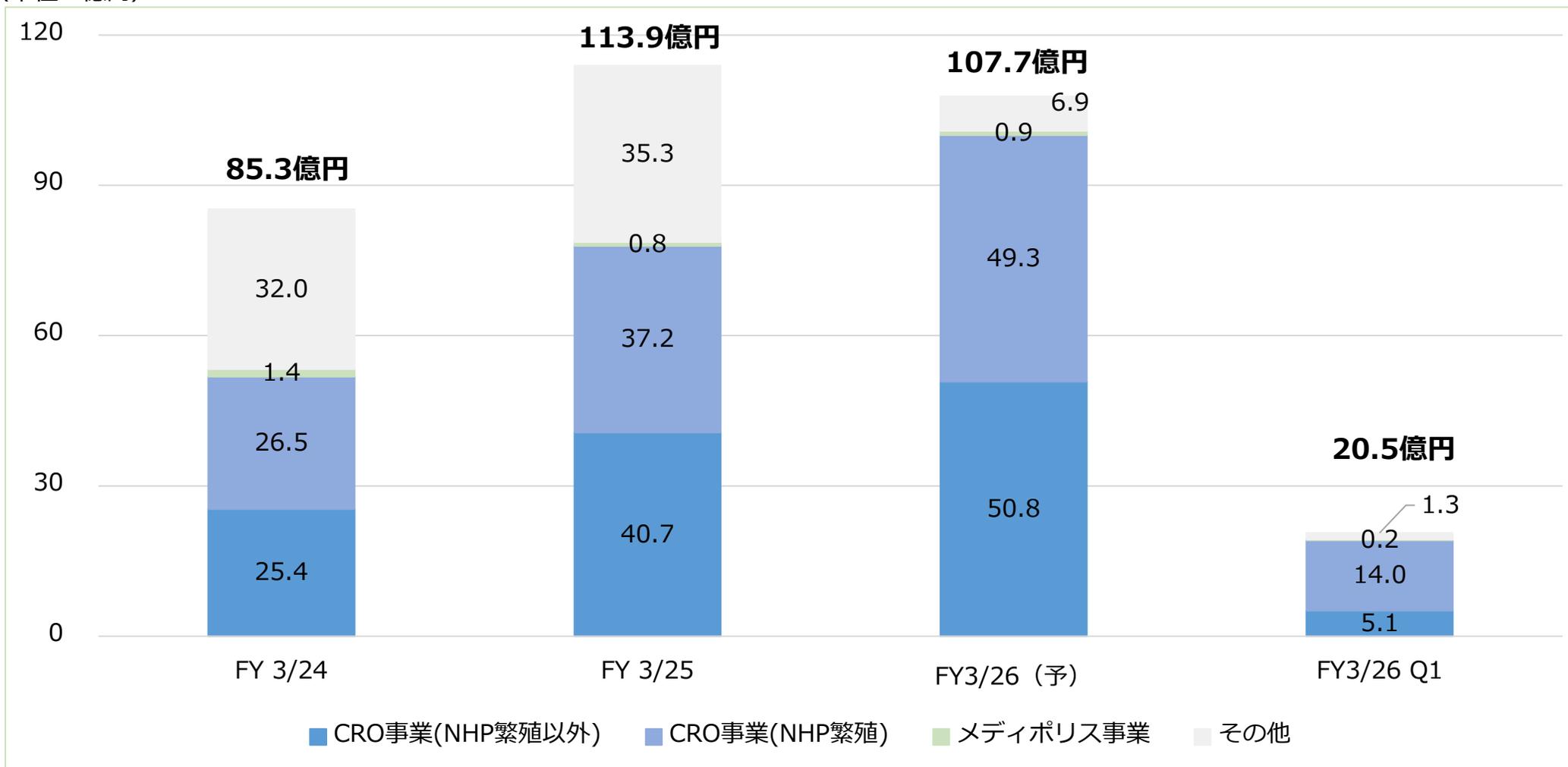
Satsumaの経費を上期分のみ計上

その他経鼻基盤技術等の研究開発関連費用

※事業利益は営業利益+持分利益

## 非臨床事業の海外受注増に対応する体制整備に向けた投資を継続

(単位：億円)



# 3. 事業トピックス

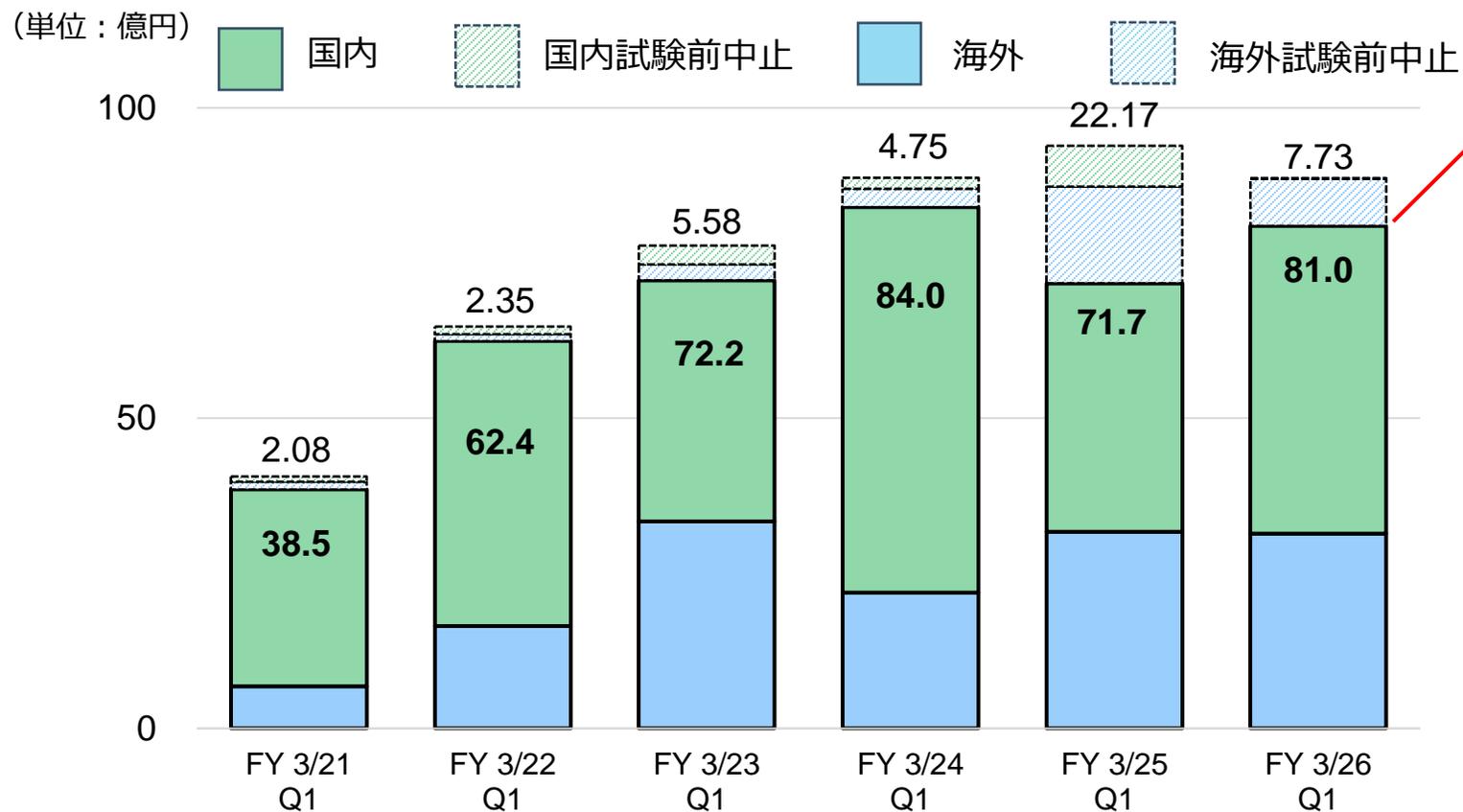
## ① CRO事業（非臨床）

---



専務取締役  
角崎 英志

# CRO事業：2026年3月期 第一四半期 非臨床 受注状況（円ベース）



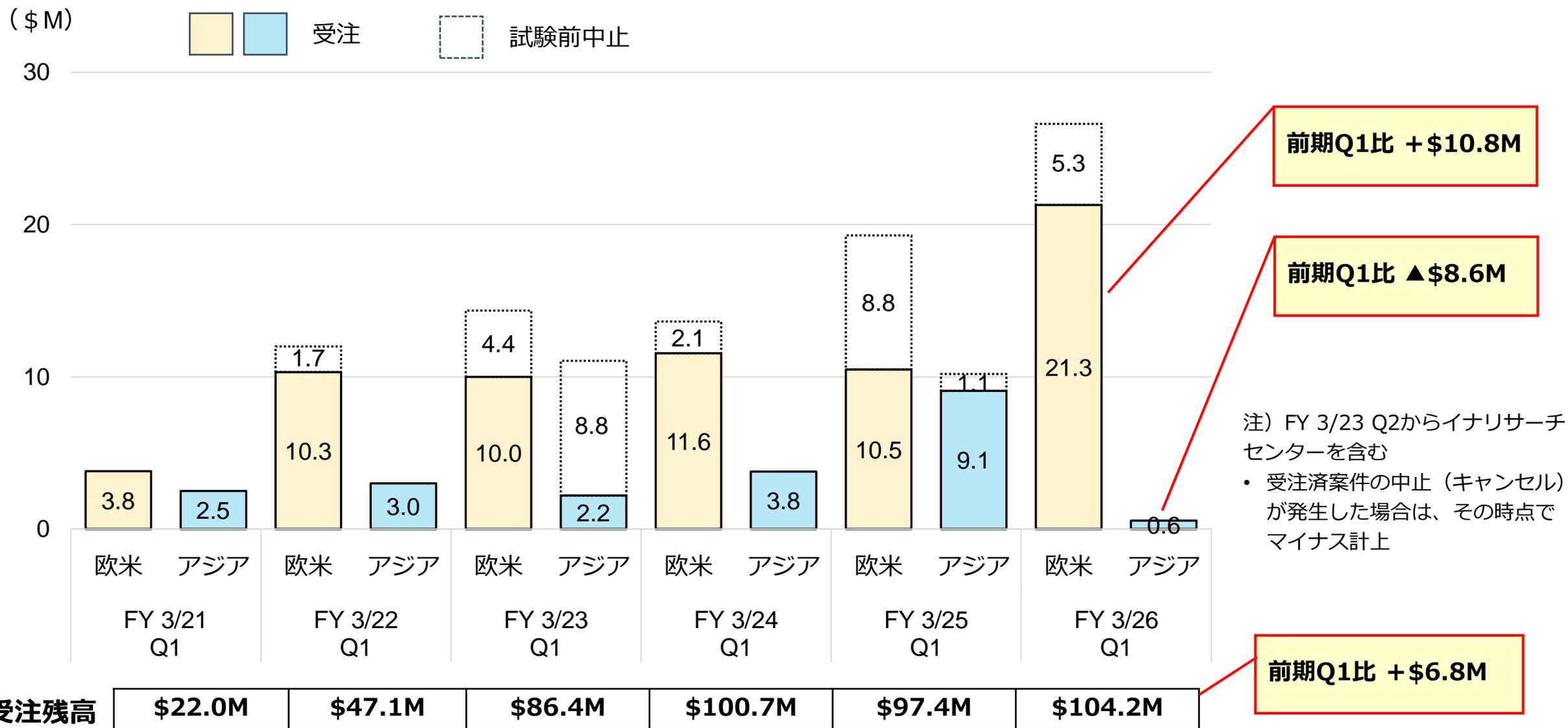
前期Q1比 +9.3億円  
換算レート(期中平均)143.72円/\$

注) FY 3/23 Q2からイナリサーチセンターを含む  
・ 海外受注残高は円換算レートを各期の期末レートで算定

受注残高	125.3億円	172.2億円	257.6億円	333.3億円	360.5億円	361.1億円
海外受注残高比率	18.9%	30.2%	45.8%	44.0%	43.7%	44.4%
海外受注高比率	17.6%	26.4%	46.2%	26.1%	44.2%	38.8%

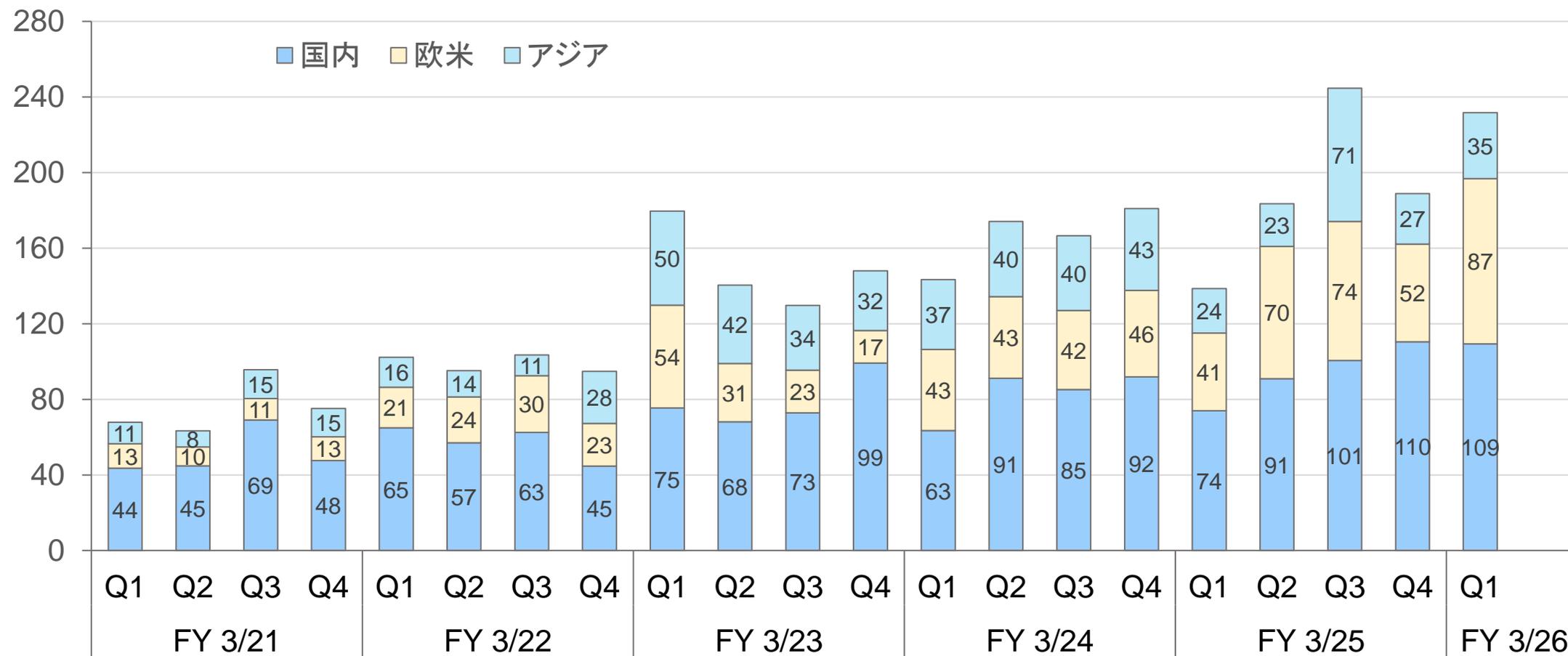
前期Q1比 +0.6億円

# CRO事業：2026年3月期 第一四半期 非臨床 海外からの受注状況（US\$ベース）



# CRO事業：見積提出金額の推移

(単位：億円)

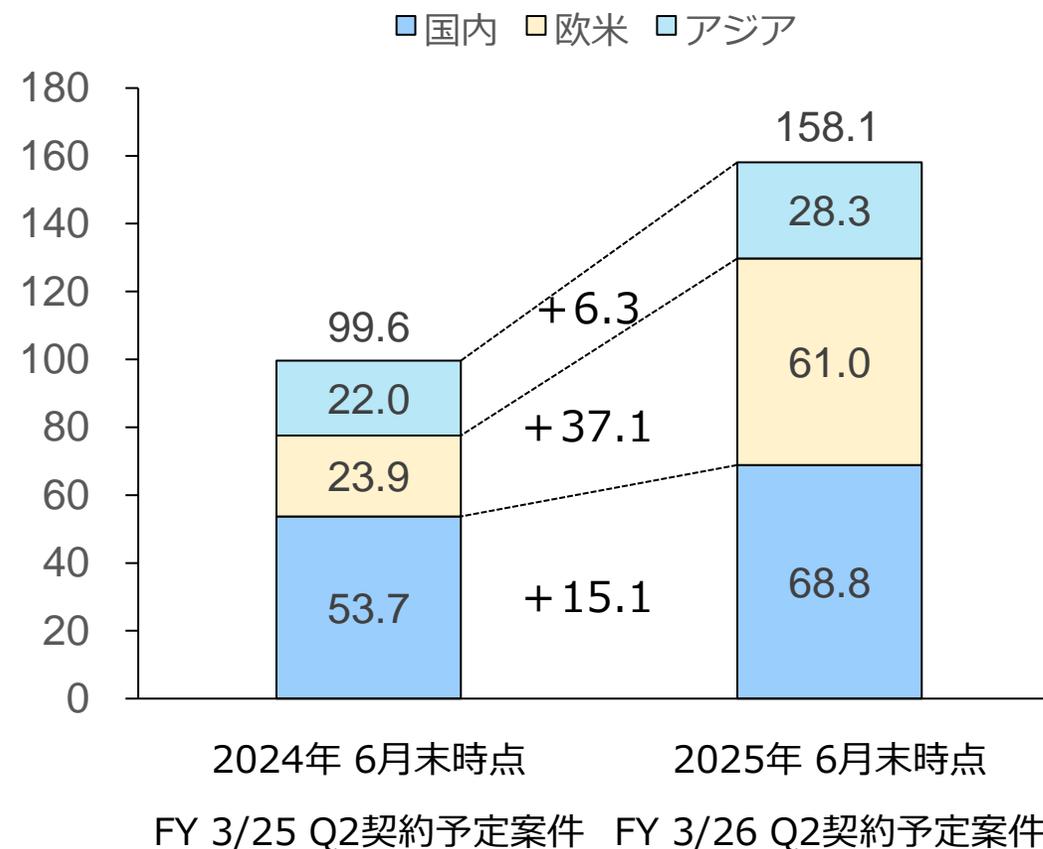
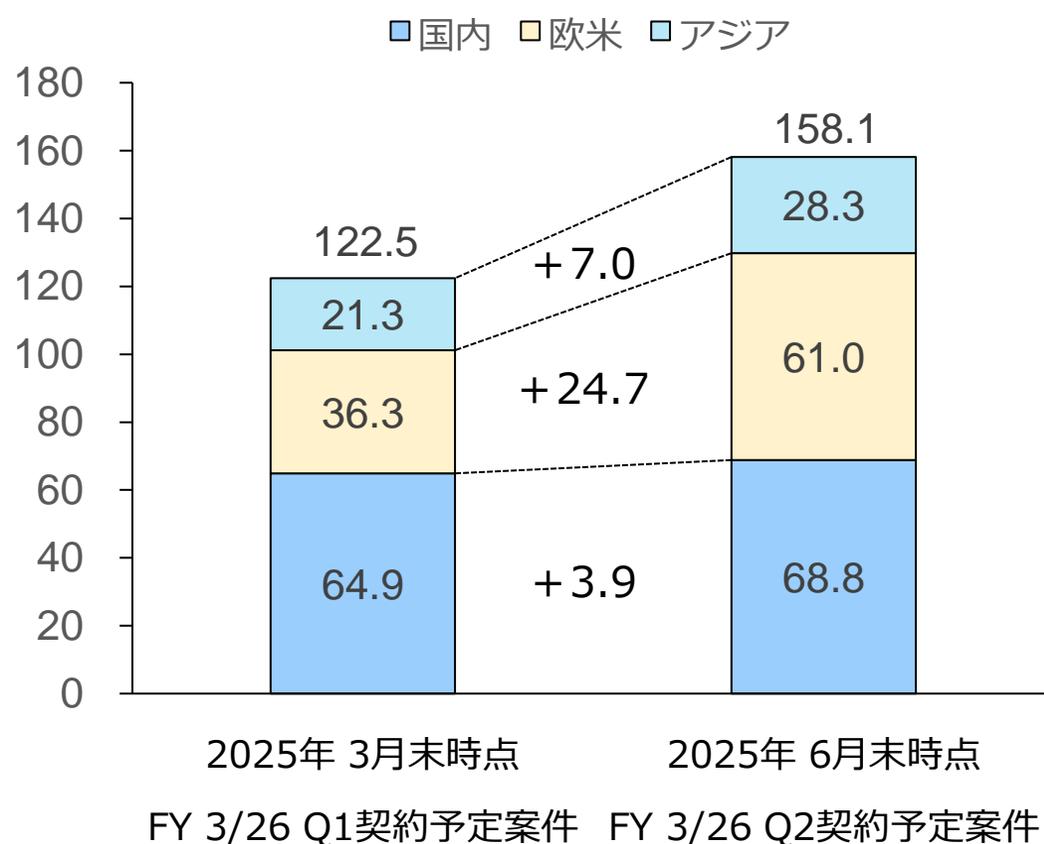


※ 海外の見積提出金額は円換算レートを各期の期中平均レートで算定

# CRO事業：2026年3月期 第一四半期 問合せ状況



(単位：億円)



※ 海外の問い合わせ状況は円換算レートを各期の期中平均レートで算定

## 国内

- 国内受注額は前期Q1と比較して954百万円増加。
- 国内製薬企業1社と新たにプリファード契約を締結。
- アステラス製薬株式会社の研究所の一つであるつくば研究センター内のオープンイノベーション拠点「SakuLab™ Tsukuba」に隣接する動物施設を活用して、当社が非臨床試験に関するサービスを2024年10月から提供開始。当Q1は多数の施設見学があり、複数の契約を締結。
- 医薬品や化学物質の安全性評価に関する分野で日本最大の学会である日本毒性学会学術年会在7月初旬に沖縄コンベンションセンターで開催され、当社は6演題の発表を実施。

### 日本毒性学会学術年会

- 企業展示
- ランチョンセミナー
- シンポジウム 2演題
- ポスター 4演題



## 海外

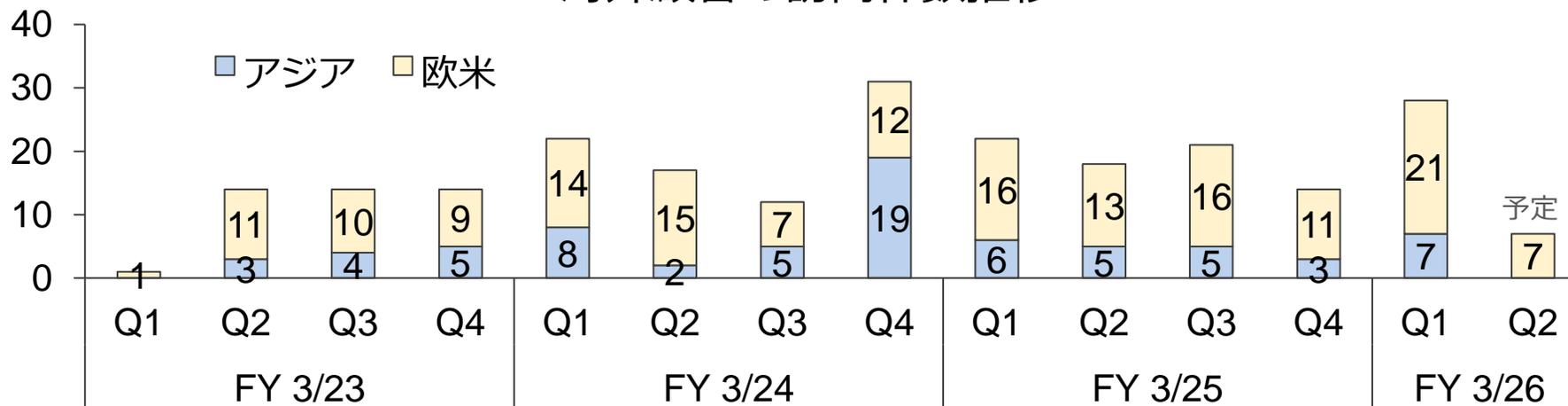
### アジア

- アジア受注額は前期Q1と比較して1,430百万円の減少。
- 韓国における当社非臨床事業の代理店であるWOOJUNG BIO社において、SNBLセミナーを開催（6/17）。
- 韓国で著名な医療・バイオ系情報誌「THE BIO」に永田社長のインタビュー記事が掲載（6/23）。

### 欧米

- 欧米受注額は前期Q1と比較して1,401百万円の増加。
- グローバルメガファーマ1社からプリファードベンダー認定を取得。

海外顧客の訪問件数推移



# 3. 事業トピックス

## ②CRO事業（臨床）

---



代表取締役副社長 COO  
新日本科学PPD 代表取締役社長  
永田 一郎

# CRO事業：臨床事業について

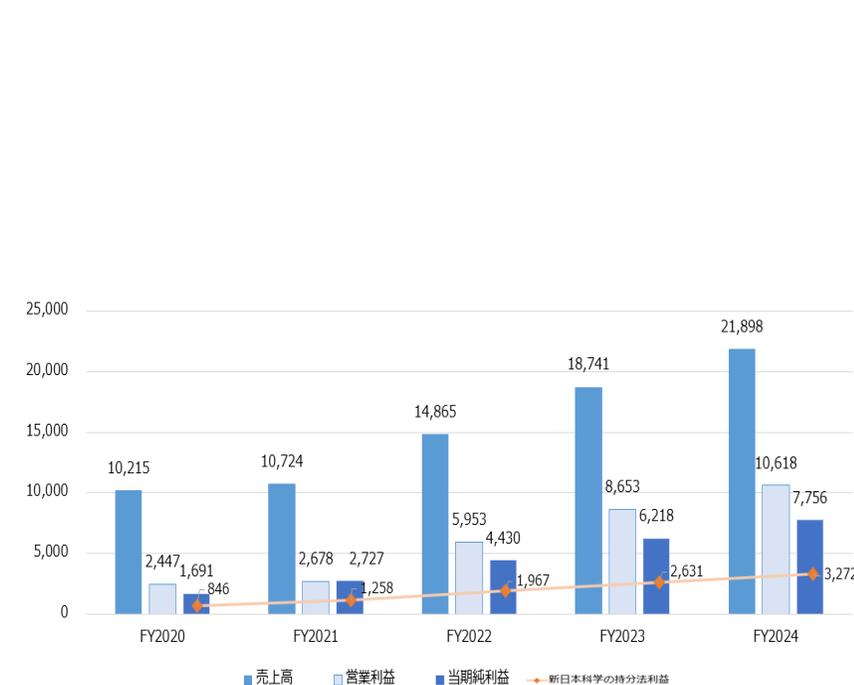
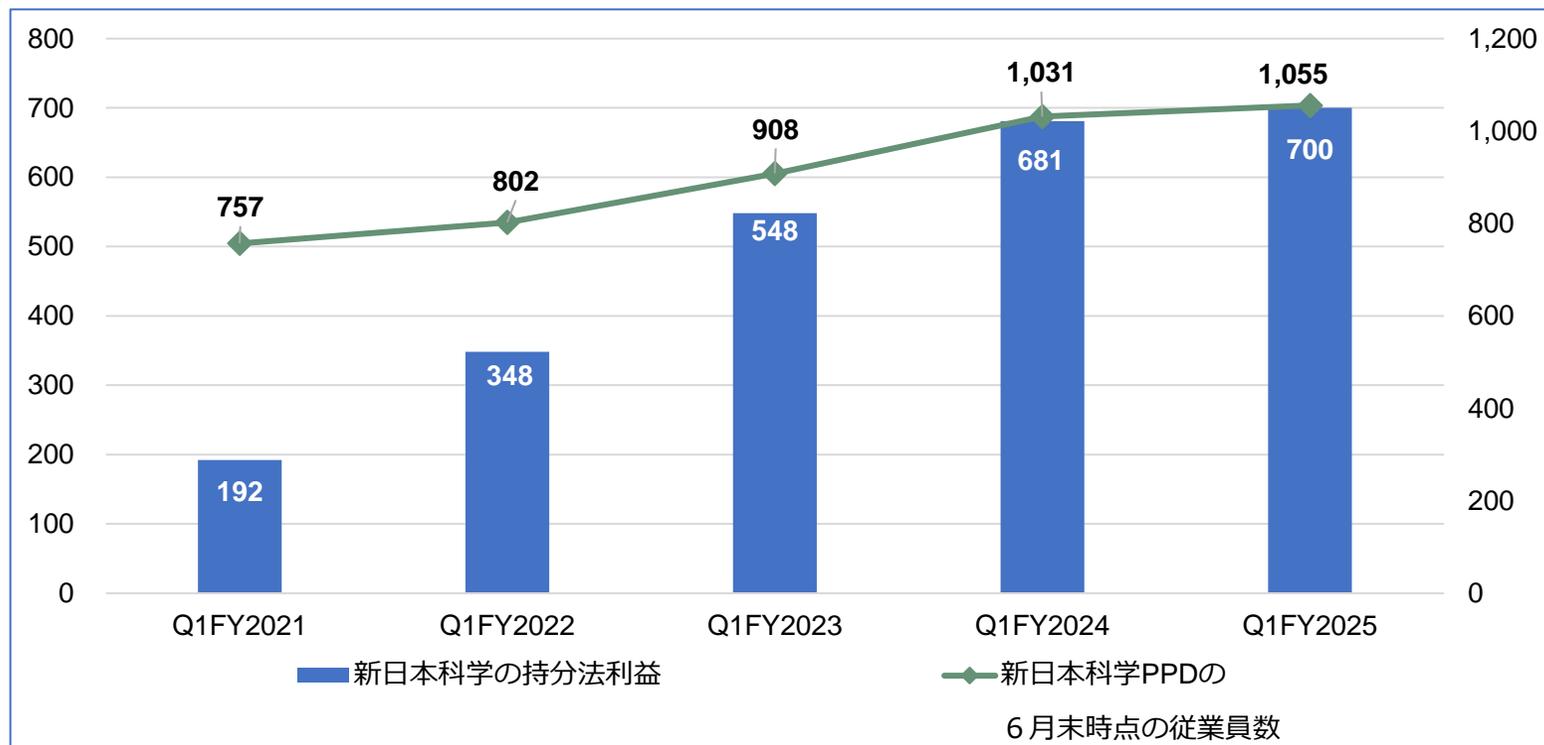


- 新日本科学PPDからの当Q1の「持分法による投資利益」は700百万円（Q1前期比+19百万円）とQ1として過去最高を更新
- 2025年6月末の従業員数は1,055人

当社が受取る持分法による投資利益と新日本科学PPDの6月末時点の従業員数

(単位：百万円)

(単位：人)



\* 年度別推移 (前回発表資料より)

# 3. 事業トピックス

## ③TR事業／SGG事業

---



取締役副会長  
高梨 健

**Satsuma**  
片頭痛の急性期治療を目的とする

**Atzumi™**  
(dihydroergotamine)  
nasal powder

**SNLD**  
パーキンソン病患者のオフ症状の改善を目的とする



**経鼻粘膜ワクチン  
研究開発センター**

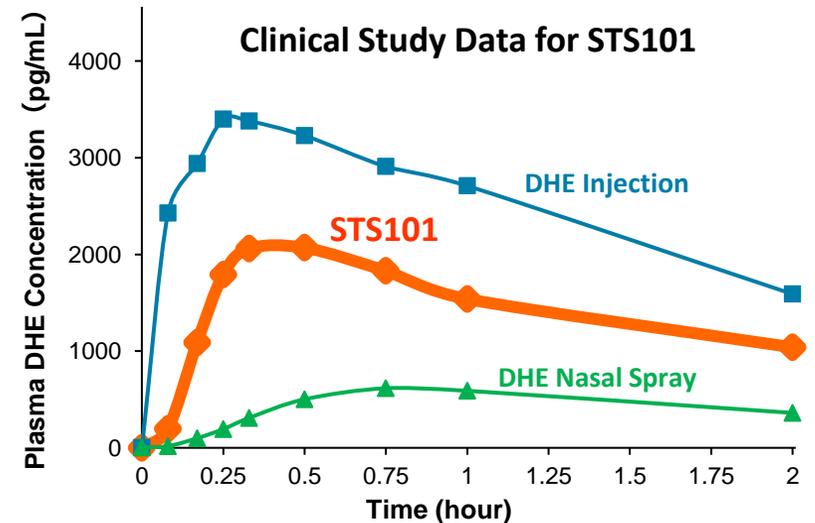
複数の呼吸器系ウイルスに対し上気道粘膜で感染を遮断する粉体型経鼻ワクチンの開発

研究助成金



Atzumi™は、成人における、前兆のある/前兆のない急性片頭痛治療のための、初めてで唯一のDHE経鼻粉末剤である。  
Atzumi™は、簡便操作で、携帯性に優れている。  
Atzumi™は、速やかで高い血中DHE濃度を維持する。

## 速やかで高い血中濃度を維持



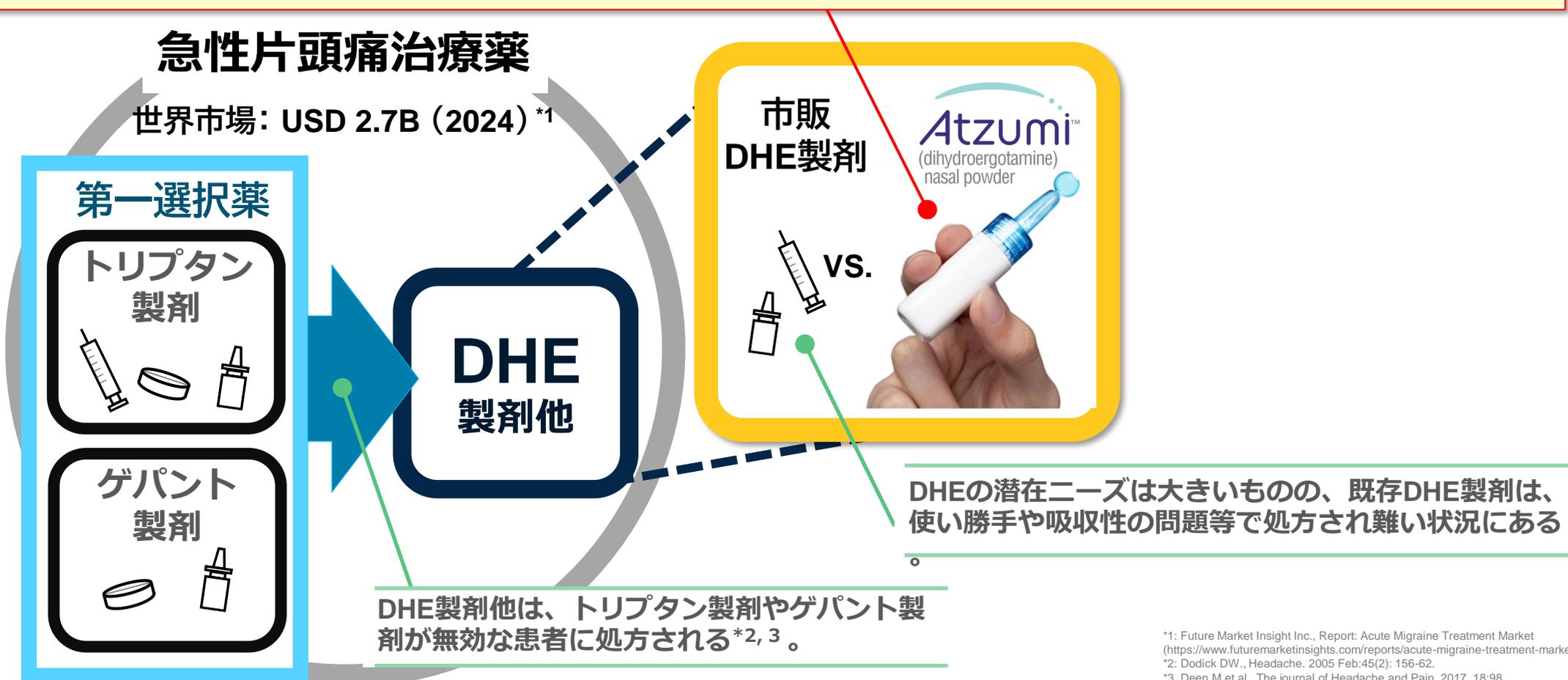
## 優れた携帯性



## 簡便操作



- Atzumi™は、既存DHE製剤の問題を克服した新規経鼻DHE製剤。
- 片頭痛専門医100名に対する独自調査において、専門医が受け持つ片頭痛患者の30%程にAtzumi™を処方したいとの調査結果。



\*1: Future Market Insight Inc., Report: Acute Migraine Treatment Market (<https://www.futuremarketinsights.com/reports/acute-migraine-treatment-market>)

\*2: Dodick DW., Headache. 2005 Feb;45(2): 156-62.

\*3: Deen M et al., The Journal of Headache and Pain. 2017. 18:98.

本年6/19~6/22に米国ミネアポリスで開催された第67回米国頭痛学会（American Headache Society: AHS）において、Atzumi™ (STS101) の臨床試験結果に関するポスター発表を実施。

## [ 発表内容 ]

### 1. Strong CYP3A4 Inhibitor Itraconazole Does Not Cause Clinically Relevant Interactions with STS101 (Nasal Dihydroergotamine Powder)

発表者: Detlef Albrecht, MD

STS101の薬物相互作用評価臨床試験（31例）において、STS101とCYP3A4阻害剤である経口イトラコナゾールを併用した時の血中DHE濃度は、STS101単独使用時と比較して、最高血中濃度で約14%、血中濃度下面積で約19%それぞれ増加しましたが、臨床的变化は認められず、どちらの条件も忍容性は良好でした。

### 2. STS101 Use Reduces Migraine Frequency Over Time

発表者: Stewart Tepper, MD

STS101の長期安全性評価臨床試験（ASCEND study）において、12か月間STS101を使用した患者（176例）の片頭痛発作頻度が、使用期間の経過とともに有意に低下することが確認されました。

### 3. STS101 (Dihydroergotamine Nasal Powder) Shows Benefit on the Resolution of Cardinal Migraine Symptoms Photophobia, Phonophobia, and Nausea: Results from the Long-Term Phase 3 Open-Label ASCEND Study

発表者: Amaal J. Starling, MD

STS101の長期安全性評価臨床試験（ASCEND study, 344例）において、片頭痛時に起こる痛み以外の症状である、光恐怖症、音恐怖症及び吐き気の発生割合は、STS101の投与2時間後でそれぞれ50%以上、投与24時間後ではそれぞれ90%以上が消失しました。

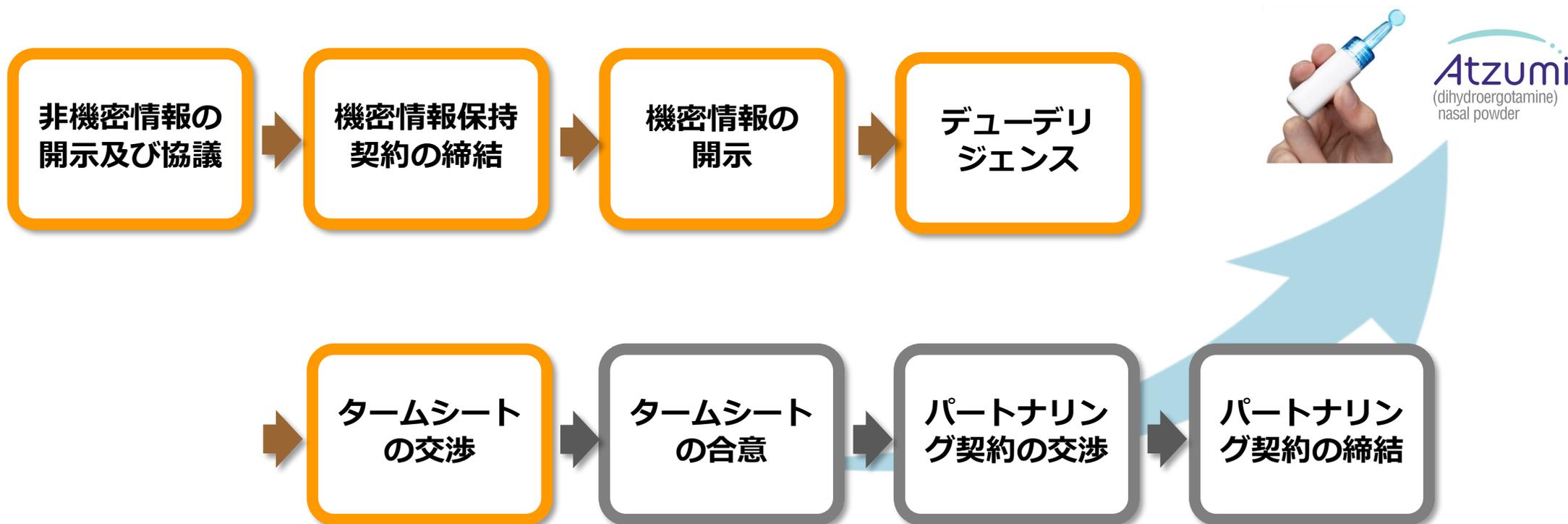
# TR事業： Satsuma社 片頭痛経鼻薬Atzumiの開発状況

- 本年4月30日（米国時間）に、米国FDAからAtzumi™の新薬承認を取得。
- 市販製造を進めながら、候補企業とのパートナーリング交渉が進行中。



# TR事業：パートナーリング交渉

Atzumi™の早期上市と、将来利益の最大化と継続的な利益獲得のための各種条件や各種オプションを考慮しながら、複数の企業とパートナーリング交渉を進行中。





## パーキンソン病 (PD) のオフ症状に対して自分で投与でき、速やかな症状改善が期待できる経鼻オンデマンド治療薬の開発

- 国内P2試験でPOC取得。
- American Academy of Neurology (AAN)、日本神経学会、日本パーキンソン病・運動障害疾患学会 (MDSJ) でリード開発品「TR-012001」の臨床試験成績を発表。

経鼻粘膜ワクチン  
研究開発センター



研究助成金



SCARDA



AMED

## 複数の呼吸器系ウイルスに対し

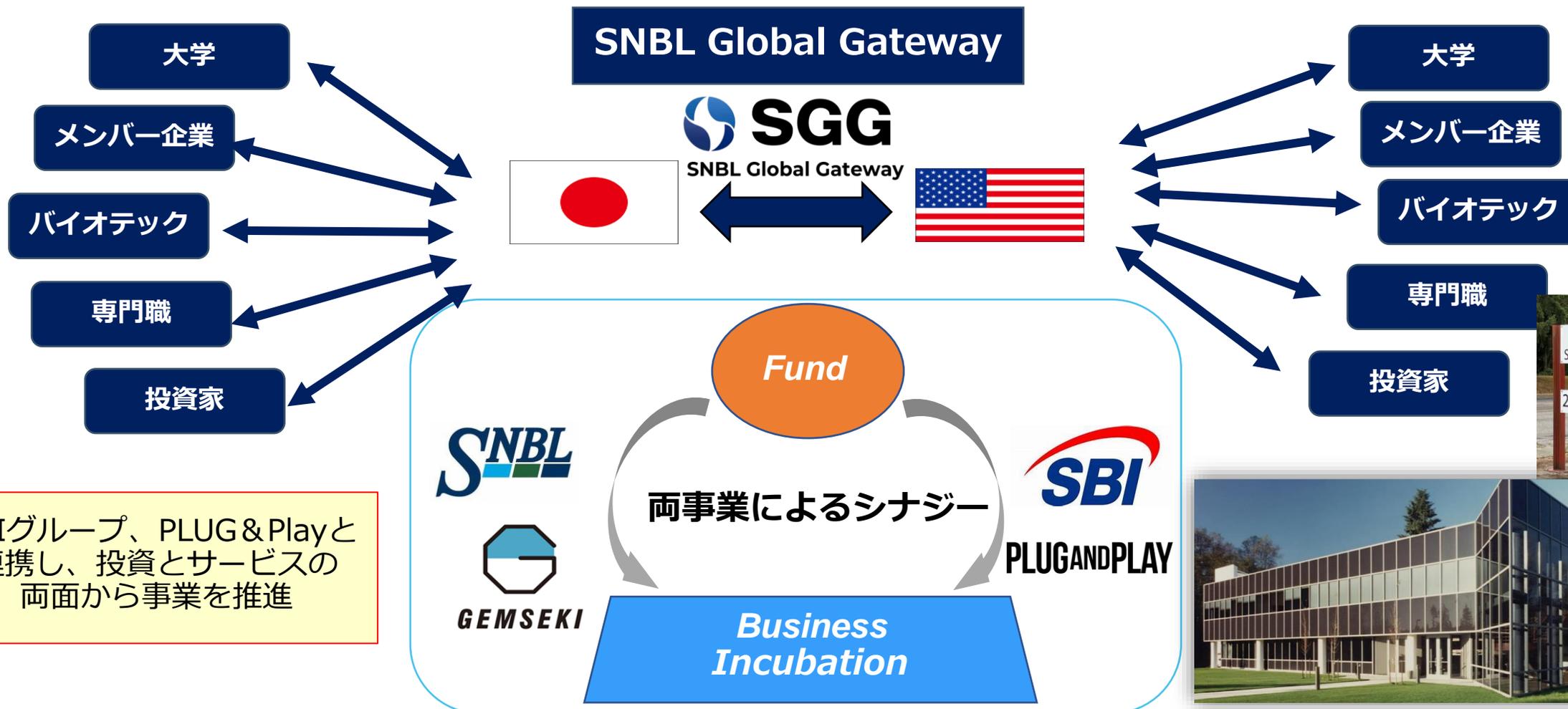
## 上気道粘膜で感染を遮断する粉体型経鼻ワクチンの開発

- AMED/SCARDA「粉体噴射型IgA産生誘導経鼻ワクチンシステムの開発」の進捗報告会で否定的コメントなく、契約期間延長。
- 免疫原性・安全性の高い抗原を用いた社内試験で良好な結果が得られつつある。

# SGG事業：グローバル創薬支援サービス



米国ワシントン州のインキュベーション施設(SGG)を日米の創薬業界関係者が協働するための活動拠点とし、新たな投資や創薬支援サービスの機会を創出。



SBIグループ、PLUG&Playと連携し、投資とサービスの両面から事業を推進

# SGG事業：米国創薬エコシステムの優位性

日本に比べて、**市場・人材・資金・開発・技術**の5つの観点で、**バイオテックの成長において、高い優位性がある。**

日本	VS	米国
医療費約47兆円/2023年 市場小規模 国内完結	市場	医療費約720兆円/2023年 世界最大の市場 FDA = グローバル展開
CxOの経験者が希少 保守的	人材	起業家・VC連携豊富 流動的
調達額数億円が主流 バイオVC少数 上場後の資金調達が難しい	資金	数億円～100億円級の投資 バイオ専門VC多数 上場後の資金調達が容易
規制が複雑で 承認プロセスが長期間化	開発	規制基準が明確で 承認プロセスが迅速化
国内評価中心 海外発信の課題	技術	グローバル製薬・投資家が評価 イベント多数



## 日米比較から見える 米国創薬エコシステムの強み



承認後の売上・出口が桁違い



米国流の経営人材が揃う



シードから上市・Exitまで支える  
継続的な資金が米国にある

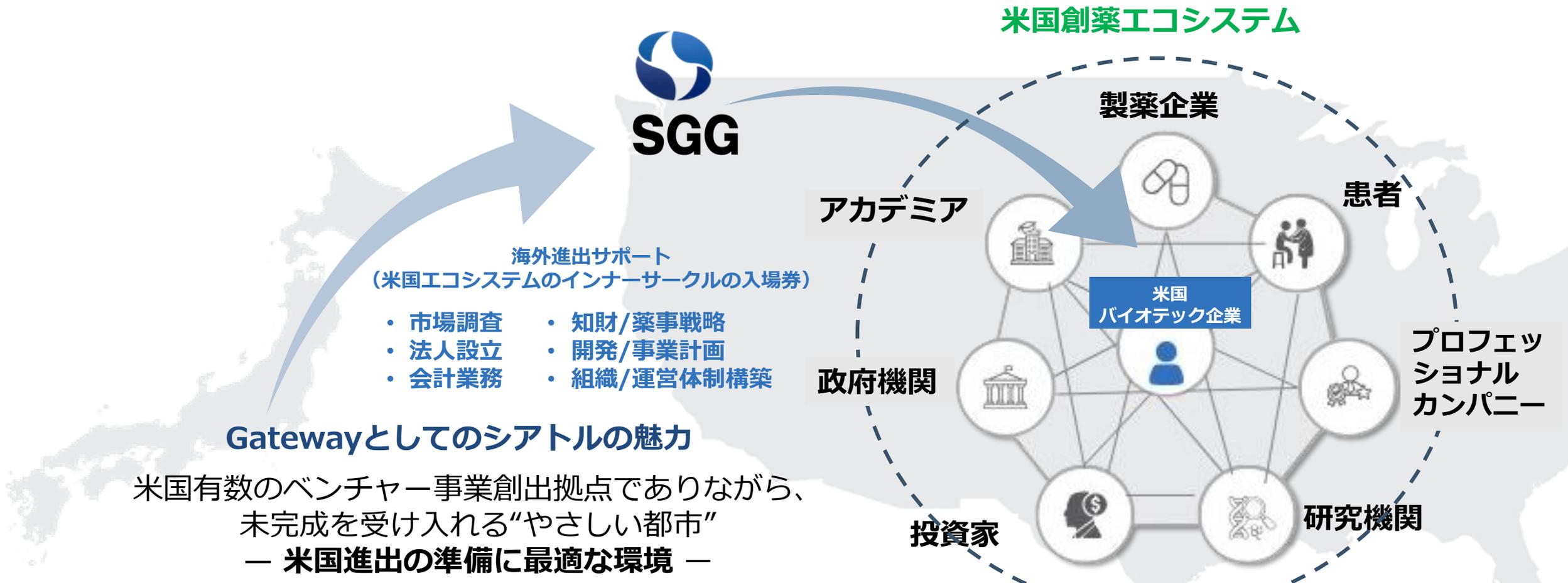


PoCや国際承認は米国主導が有利



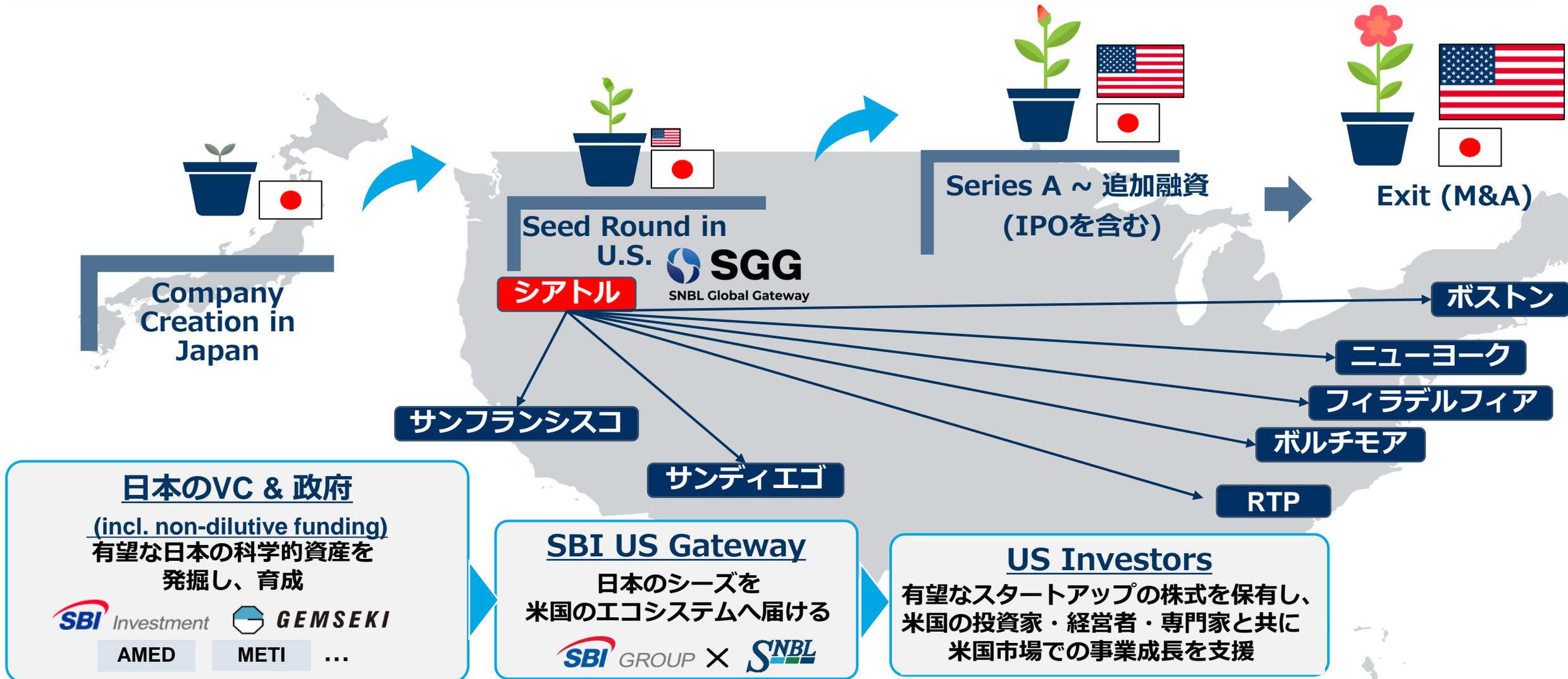
真に評価されるには世界基準に

米国創薬エコシステムのインナーサークルに入り、米国バイオテック企業として、米国流の経営判断と迅速な意思決定を行える企業へ成長するためのサポート。



# SGG事業：創薬エコシステムへの貢献

事業成長に合わせた段階的な米国進出サポートを実現



# 4. Q&A

---



## 業績データ一覧

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
売上高	15,110	17,748	25,090	26,450	32,413	33,272
前年比	3.8%	17.5%	41.4%	5.4%	22.5%	2.6%
売上総利益	7,554	9,687	13,046	14,282	16,960	18,168
売上総利益率	50.0%	54.6%	52.0%	54.0%	52.3%	54.6%
営業利益	2,529	4,195	5,245	4,162	2,985	3,550
前年比	13.5%	65.9%	25.0%	-20.6%	-28.3%	18.9%
持分法による投資利益	846	1,439	2,489	2,751	3,513	2,391
経常利益	3,645	7,078	9,194	7,015	6,450	5,927
税引前当期純利益	4,175	8,183	7,759	6,974	6,013	5,834
法人税等	497	1,016	1,708	1,456	1,148	2,284
親会社株主に帰属する当期純利益	3,661	7,127	6,060	5,531	4,924	3,550
1株当たり当期純利益 (円)	87.95	171.20	145.56	132.86	118.29	85.27
海外売上高	2,100	3,091	6,575	8,637	10,889	--
海外売上高比率	13.9%	17.4%	26.2%	32.7%	33.6%	--
株主資本	15,840	22,181	25,751	29,252	32,124	--
純資産額	15,838	19,723	26,359	34,160	40,085	--
総資産額	36,972	39,312	57,242	76,302	92,416	--
有利子負債	12,864	9,281	18,931	26,331	34,347	--
自己資本比率	42.6%	49.8%	45.8%	44.7%	43.3%	--
設備投資額	1,025	1,703	5,614	8,525	11,390	10,775
減価償却費	1,187	1,177	1,544	1,774	2,496	4,257
研究開発費	392	425	683	1,741	2,217	2,525
売上高R&D比率	2.59%	2.39%	2.72%	6.58%	6.84%	7.59%
期末従業員数 (人)	986	994	1,208	1,341	1,436	--
自己資本当期純利益率 (ROE)	22.9%	40.4%	26.5%	18.3%	13.3%	--
総資産経常利益率 (ROA)	9.6%	18.6%	19.0%	10.5%	7.6%	--
投下資本利益率 (ROIC)	12.3%	18.4%	17.9%	12.5%	10.4%	--
売上高営業利益率	16.7%	23.6%	20.9%	15.7%	9.2%	10.7%
売上高経常利益率	24.1%	39.9%	36.6%	26.5%	19.9%	17.8%
1株当たり配当額 (円)	20.0	40.0	50.0	50.0	50.0	50.0
配当性向	22.7%	23.4%	34.3%	37.6%	42.3%	58.6%

1. 業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々なリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
2. 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
3. この資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝 広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
4. 当資料は「2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」に準拠し作成しています。また、差額、比率については億円単位未満は切捨てで記載しております。

## <IRに関するお問い合わせ>



株式会社新日本科学  
IR広報統括部

電話：03-5565-6216

E-mail：ir@snbl.com

HP：https://snbl.com/